

# 身近に生息 特定外来生物

## 記者たち 捕獲作戦に出動!

### 固有種ほとんど 確認できず

新聞同好会12名で網3本、観察用水槽を持参し、本校の生物担当の教諭、小川聖

学校近くで、憩いの場となっている公園の水路、そこに存在してはならない「特定外来生物」が生息しているという情報をつかんだ新聞同好会は、捕獲作戦を実行し、その生息を調査することにした。その結果、アメリカザリガニ(条件付特定外来生物)や、メダカによく似たカダヤシ(特定外来生物)等を数多く捕獲。現在わが国において問題になっている「特定外来生物」が身近に多数生息していることを知り驚いた。



太朗先生、池田大悟先生の指導のもと、ザリガニ取りなど地域の人々の憩いの場へ採集、観察をした。まず最初に捕獲したのはメダカによく似た特定外来生物のカダヤシ(Gambusia affinis)。その次に令和5年6月1日から特定外来生物として規制がスタートしたアメリカザリガニ(Procambarus clarkii)。



固有種は生息数が少ないことを、カワニナ(淡水性の細長い巻き貝・固有種)を示して、指摘する小川先生

### 外来種の問題点

外来種が起す問題として、アメリカザリガニの場合には在来の生物を食べたり、水草を切り尽くしたりする他、ザリガニペストや白斑病などを持ち込み、水質の悪化や、在来生物の減少に繋がる可能性がある。

カダヤシの場合は繁殖力、攻撃性が強く、メダカなどの小型魚類との競争や稚魚捕食による在来魚の減少などに繋がる可能性がある。在来のミニメダカの減少の要因とされている。

### 私たちが 気を付けたいこと

アメリカザリガニはミシシッピアカミミガメ(ミドリガメ)と同様、条件付特定外来生物に指定されておりペットなどとして飼育可能とされている。

しかし、カダヤシは特定外来生物に指定されており、ペットとしての飼育、輸入販売、購入やそれを目的と

## 松陽高校 総合優勝

4月26日、第6回松陽高校・伊集院高校スポーツ交歓会が伊集院総合運動公園で野球・サッカーが、伊集院総合体育館では男女バスケットボール・バドミントン・女子バレーボールの試合が開催された。当日は、各校の生徒・職員が各会場に分かれて応援した。松陽高校はこの交歓会を「松伊戦」と呼ぶが、伊集院高校は「伊松戦」と呼び、楽しいムードの中にも真剣さが漂う白熱した試合が展開された。結果は、松陽高校5勝、伊集院高校2勝で、松陽高校が総合優勝に輝いた。

### 傘差しながらも 応援白熱!

雨の中、松陽高校の応援が白熱した。観客の気持ちは選手たちに向いてきたことはうれしい。選手たちの勇敢な姿は観客の記憶に残り、松陽高校生の団結をさらに強めた。



各競技の結果を聞き、両校が拍手で互いの健闘を讃えあった。(伊集院総合体育館)

### 体育館に 両校の応援響く

伊集院総合体育館でバスケットボールの試合では、松陽高校がなかなか得点を取れない場面も続いたが、男女ともに中盤から主導権を握り、スリーポイントシュートが連続で入る場面があった。男子バスケットボール部は50対40、女子バスケットボール部は35対26で男女とも勝利した。

## 第6回 松陽高・伊集院高 スポーツ交歓会

雨の中での試合となったが、サッカーは2対1、野球は1対0でどちらの試合も松陽高校が勝利を収めた。野球は0対0で9回裏まで進んだ。松陽高校の最後の攻撃で、松陽高校側は、この回にかけた応援に力を入れた。ここで上園航毅さん(3年1組)がボールを捉え、タイムリーヒットでサヨナラ勝ちとなった。



雨天をもとめせず、試合・応援に盛り上がった。



本校の注目の生徒をクロアアップする「煌めく(きらめく)松陽生」。今回は、体操競技の女子の種目である段違い平行棒を優雅に舞う佐川心彩さんだ。佐川さんは5月17日、18日に鹿児島県で行われた鹿児島県高等学校新体操・体操競技選



さがわみさ 佐川心彩さん (3-6)伊敷中出身

### 体操競技部

手権大会において、段違い平行棒で見事3位に輝いた。今後の活躍にも期待されている松陽のヒロインだ。

Q 入賞したときどのような気持ちでしたか  
A 私は、日々の練習を大切に頑張ってきたので、賞を取れた時は日々の積み重ねの成果が現れてうれしかったです。ここまで努力してきたよかったです。改めて感じました。

Q 競技が楽しいと感じる瞬間は?  
A 技ができた時に感じる喜びや、技への恐怖心に打ち勝って達成感を感じた時です。また、体操競技は日常生活ではない動きなので、技をすること自体がとても楽しいです。

Q 練習で工夫していることは?  
A 前日までに練習で気をつけたいところを紙に書いておいて、当日はその内容をメインに練習します。そして、終わった後で



第76回全九州高等学校体操競技大会(佐賀県, 6月23日)での競技の様子

きていたかチェックするようにしています。

Q 競技を始めたきっかけは?  
A 小学2年生の頃にジュニアスポーツクラブに誘われて4年生まで通ったことです。その後、原良少年団を経て、現在はRamona(ラムナ)体操クラブに所属しています。

Q 次の大会での目標は?  
A 平均台から落下せず、悔いの残らない完璧な演技をしたいです。

「立野美吹・内野心春

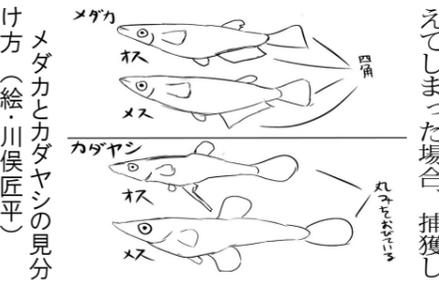
Q 競技が楽しいと感じる瞬間は?  
A 技ができた時に感じる喜びや、技への恐怖心に打ち勝って達成感を感じた時です。また、体操競技は日常生活ではない動きなので、技をすること自体がとても楽しいです。

Q 練習で工夫していることは?  
A 前日までに練習で気をつけたいところを紙に書いておいて、当日はその内容をメインに練習します。そして、終わった後で

アメリカザリガニとカダヤシが30匹ほど捕獲できた



した飼育が禁止されている。またメダカによく似ており誤って飼育や移動をしてしまうという事例も多い。特定外来生物はそれを飼育、栽培、移動、輸出入、野外に放すと個人の場合、最高で3年以下の懲役または300万円以下の罰金が科せられる。



えってしまった場合、捕獲した場所に戻すか、殺処分しなくてはならない。環境省の外来種被害予防三原則は、①外来生物をむやみに日本に「入れない」②飼っている外来生物を野外に「捨てない」③野外にすでにいる外来生物は他の地域に「拡げない」だ。まずは、捕獲したアメリカザリガニを他の川などに放流

しないことを守らなくてはならない。小川先生は「なぜ外来種が日本に持ち込まれたか、また、松陽台のピオトープにどのような住みつきか?など調査を進めると良い」とアドバイスをされた。新聞同好会の取材アマンとして今後も調査・続報を計画していきたい。

「川俣匠平」